

文部科学省採択事業

実務家教員育成 研修プログラム

持続的な産学共同
人材育成システム構築事業

AIBET Academia-Industry Bridge Program for
Educational Transformation

2023年度 履修証明プログラム 産学連携教育イノベーター育成プログラム



Brush up Program
for professional

文部科学省
職業実践力育成プログラム(BP)認定講座

教育訓練給付制度(特定一般教育訓練)
厚生労働大臣指定講座

社会の「知」を持って
ここに起つ。

2023年度 受講生募集

大阪公立大学 国際基幹教育機構
アントレプレナーシップ教育力育成コース



Osaka Metropolitan University

教育者が生まれる。

プレナーシップ教育を担う実務家教員の育成を目指し、「産学連携教育イノベーター育成プログラム」を開講します。企業や自治体、NPOなど、社会のあらゆるセクターで実務経験を積んだ方が、自らの経験に基づいた実践的な知に立脚し、大学教員や学生と共に多様な専門知を活用して、新たな価値創造基盤の構築と人材の育成に取り組むための様々な知識、経験、ノウハウを提供します。

どんな環境でもあきらめず学びを継続する。それがそが他者として自らを成長させる。そんな経験を共にしてみませんか。

大阪公立大学
広瀬 正

履修証明プログラム

「産学連携教育イノベーター育成プログラム」は
大学教育イノベーションを先導する「実務家教員」を育成するプログラムです。

「産学連携教育イノベーター育成プログラム」(以下、プログラム)は、2019年に文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」に採択された「創造と変革を先導する産学循環型人材育成システム」の取り組みの一つです。

企業と大学が連携し、企業で経験を培った人材と高等教育機関の学問を融合させ、実践的かつ広く深い学びを追求し、学生も社会人も学び続け、チャレンジ続けられる社会の実現と、未来を拓く教育者を各界へ輩出するため、その中心的役割を担う実務家教員を育成することを目的としています。

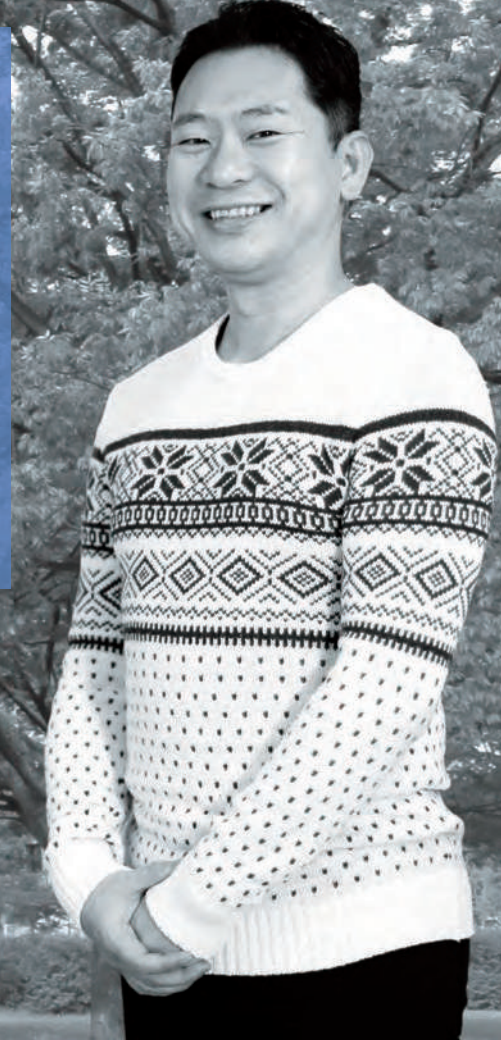
夢から未来を託す

誰ひとり取り残さない社会の実現にむけて、我々に今何ができるか。

高等教育機関としての大学には、真理の探究や専門的学問を教授するという従来からの使命に加え、社会との関わりの中で多様な知を活用し、来るべき未来社会の創造に寄与する人材を育成し輩出することにも、多くの期待が寄せられています。

このような要請に応えるため、大阪公立大学では、産業界や行政機関と連携し、アントレプレナー精神を有し社会を変革に導くことができる高度研究者の育成に取り組んできました。

その経験を活用し、次代のアントレ



PwCコンサルティング合同会社
鐘ヶ江 靖史





大阪公立大学
特任教授
広瀬 正




PwCコンサルティング合同会社
シニアマネージャー
鐘ヶ江 靖史

担当

- 専門領域別科目「アントレプレナーシップ基礎論」
アントレプレナーに必要な基礎知識とベンチャービジネスの基本を学ぶ。
- 専門領域別科目「ベンチャービジネスコンサルティング演習」
事業化テーマのブラッシュアップ法を学ぶワークショップに参加し、講師の事例を見ながらコーチングスキルを習得する。グループワークでは、実践的に学生を指導する機会が与えられる。
- 大学教育基礎力科目「実務家教員論」
実務家教員の役割や登用メリットの学習、あるべき姿について熟考する。

担当

- 専門領域別科目「技術マネジメント基礎論」
技術マネジメントとそれに関する知識を学習する。
- 専門領域別科目「技術マネジメントコンサルティング演習」
科学技術の事業化と産業化について、考え方やプロセスの指導・育成事例を基に学ぶワークショップに参加し、講師の事例を見ながらコーチングスキルを習得する。実践的に学生を指導する機会もあり、多様なメンバーとの議論の中から、変化し続ける社会においてイノベーションの成功確率を上げる手法や考え方を学ぶ。

産学連携教育イノベーター育成プログラムは 仕事と学び、学問と社会を繋ぐ実務家教員を育てます。

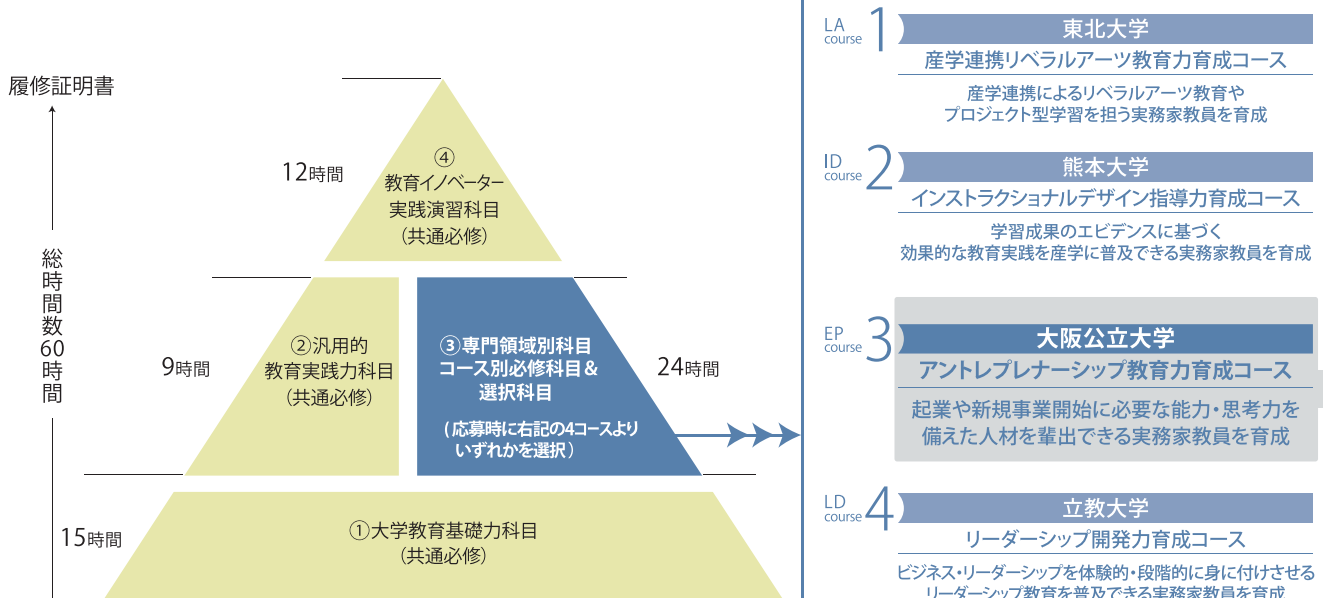
プログラムの達成目標

本プログラムが育成する実務家教員「産学連携教育イノベーター」の人材像に必要な到達目標として、次の3つの学習成果の獲得を掲げています。これらの到達目標については、目標ごとに到達度を示すポートフォリオ評価を添えることにより、プログラム全体の学習成果を明示します。

学習成果

- ① 大学教員として教育を担うための基礎的知識・技能・態度を身に付ける
- ② 各コースに設定する専門領域（汎用的な専門性）における教育実践力を身に付ける
- ③ 学びと社会を繋ぐ実践知・学術知往還及び学習成果のエビデンスに基づく教育変革を先導する「教育イノベーター」としての変革力を身に付ける

プログラムの科目構成と履修構造



本プログラムは上図の通り①～④の科目で構成されています。まず、大学教員としての教育基礎力（基礎的知識・スキル・態度）をオンライン研修で共通に学ぶ①「大学教育基礎力科目」（共通必修 15 時間）を履修したうえで、教育方法のスキルを演習形式で学ぶ②「汎用的教育実践力科目」（共通必修 9 時間）、汎用的専門性獲得のための「専門領域別科目」（24 時間）を履修します。

これらの履修をベースに、教育イノベーターとして活躍していくための資質・能力を確保するための④「教育イノベーター実践演習科目」（12 時間）を履修します。アントレプレナーシップ教育力育成コース（EP コース）を履修し、計 60 時間のプログラムを修了した際には、大阪公立大学長名にて履修証明書が発行されます。

履修証明プログラムとは

社会人等を対象に大学の教育・研究資源を活かし、一定の教育計画の下に編成された体系的な知識・技術等の習得を目指した教育プログラムで、プログラム修了者には、学校教育法105条に基づき履修証明書（Certificate）が交付されます。

プログラムの特徴

経験豊かな学内外講師陣

大学の現場を知る多彩な講師陣が、教育に関する知識とスキルを指導。教え方、学ばせ方を教示。

働きながら学べる授業体系

学習管理システム（LMS）を用いた学習コンテンツの配信。オンデマンド型授業による個別学習。同期型オンラインによる遠隔授業配信。

充実した学習支援体制

各コースに受講アドバイザーを設置。メールマガジン、メーリングリスト、LMS を通したきめ細やかな情報提供、支援の充実。

大阪公立大学「アントレプレナーシップ教育力育成コース」

コースの目的と概要

起業時や企業での新規事業開始にあたり必要な基礎知識を学ぶとともに、それらを指導・教育するための手法や技能を習得することを目的とします。本コースでは特に、高度な科学技術研究成果の事業化や産業化を例に、その際の考え方・プロセス、起業に必要な基礎知識を学びます。そして、複数の事例に基づく実践的な演習に取り組むことで、技術マネジメントの幅広い知識とアントレプレナーとして必要な素養の修得、および、その効果的な教育手法の体得を目指します。

実施体制

大阪公立大学
副学長(教育戦略・情報戦略)
高橋 哲也



科学技術と社会の関わりが深化・複雑化した知識基盤社会において、高等教育機関である大学が担う役割は多様化しています。このような環境の中で、高度な実務経験に基づく実践的な知を体系化し、教育指導、研究指導へと結びつける役割を担う、いわゆる実務家教員への期待が高まっています。学問領域の垣根をこえた実社会の様々なニーズを踏まえた諸課題に取り組む教育の実践手法などを知る、本実務家教員育成プログラムを積極的に活用頂ければ幸いです。

担当

- 大学教育基礎力科目「教育改善論」(E-ラーニング)

大阪公立大学
高等教育研究開発センター副センター長
国際基幹教育機構 教授 星野 聡孝



実務家としての経験を生かし、大学という場で自らが持つ知識や技術を学生に伝えていきたい、そう考えておられる方は多いでしょう。しかし、教育で大切なのは、必ずしも、伝えることではありません。学生たちが知識や技術を我が物とすること、それによって、学生たちが変わり成長していくことこそが大切なのです。教員としてその手助けをするために必要な知識やスキルを、本プログラムを通して身に付けていただければ幸いです。

担当

- 教育イノベーター実践演習科目「キャブストーン・プロジェクト」

コースの到達目標

- 技術マネジメントの基本的な考え方を理解し、説明できる。
- 事例に基づく技術マネジメントの指導力を身に付け、実践できる。
- アントレプレナーが理解しておくべき基本的知識を理解し、説明できる。
- アントレプレナーの育成体系を理解し、それを実践できる。

大阪公立大学
副学長(高度人材育成) 高度人材育成推進センター長
国際基幹教育機構 教授 松井 利之



大阪府立大学高度人材育成センターでは、10年におよび産学協働体制でイノベーション教育、アントレプレナーシップ教育を実践して参りました。この取り組みでは、多様な分野の産業界出身メンターが、学生との密な対話や、ビジネスプラン作成演習等の講義・演習を開設し、学生のアントレプレナーシップマインド醸成に極めて重要な役割を果たして参りました。これらの実績を基に、アントレプレナーシップ教育分野の実務家教員育成コースを開講します。

担当

- 大学教育基礎力科目「実務家教員論」(E-ラーニング)
- 教育イノベーター実践演習科目「キャブストーン・プロジェクト」

大阪公立大学
国際基幹教育機構
特任講師 山田 裕美



産学連携教育イノベーター育成プログラムでは、学習進捗のサポートをする受講アドバイザーを各コースに配置し、学習の中での疑問、社会人と勉学の両立、新しい分野の学び直しに、不安な部分も、安心して取り組んでいただけるサポート体制を整えています。実務経験を知識や学びにつなげ、教育の場で活用できるよう、受講生自身がアントレプレナーシップを発揮し、主体的に学びに取り組み、活用することで、実務家教員としてのキャリアの道を開いていただければ幸いです。

担当

- 受講アドバイザー

Graduates
Filing number

01

Questionnaire answer

① 塚本 英一 ② 有限会社エンゼル代表取締役 ③ 2021～2022年度 ④ 実務家教員の育成講座であることから ⑤ 大学で実務家教員として後進を育てると共に、専門領域を持っている人たちの強みをもっと生かしていきたい。専門系統の学部に進んでも、その道だけではなく、他の仕事で活躍する未来があることを伝えたい。

今までのキャリアを集大成し、 新たな種を蒔く

大学を卒業して製薬会社に就職したのち、総合商社、調剤チェーンなど主に医療・ヘルスケア業界で業務を経験し、現在は調剤薬局の事業会社で代表取締役を務めています。20代で調剤薬局を立ち上げたり、30代で社会人大学院に入りアントレプレナーシップ分野の研究に取り組んだり、若い頃からこの分野に関心を寄せてきました。本コースを受講した理由は、やはり実務家教員の育成講座であることに尽きます。今までの経験で得た知見を生かして後進を育てたいと考えていたので、募集要項を見て即座に受講を決めました。

授業はどれも新鮮で学びの多いものでしたが、一番印象に残っているのは広瀬先生による「ベンチャービジネスコンサルティング演習」です。私が大学生の時に授業を受けていた頃は、大講堂で受講していましたが、この授業は「徹底的に考えさせる」スタイルだったことがとても新鮮でした。先生ご自身も知識を伝えることから考え方を伝授する方法に切り替えられたと仰っていましたが、「考えさせる教育」が今の流れであるし、学生にとっても学びを得やすいのではと納得しました。また若い学生たちと同じ教室で学ぶのも新鮮で、「自分が実務家教員になったらこのようにすればいい」、「こういう工夫もできるだろう」と考えながら受講しました。

今後は大学で実務家教員として後進を育てる以外にも、日々の仕事のなかで、専門領域を持っている人たちの強みをもっと生かしていきたいと考えています。18歳で医師や薬剤師といった専門系統の学部に進むと、その道で働く以外にルートが無いように思えますが、他の仕事で活躍する未来があることを知らせてあげたい。現場で課題を見つけて解決にもっていけばアントレプレナーシップの種を自分で見つけることができますし、それを展開できればそれぞれの可能性が広がると考えています。



Questionnaire No. ① 氏名 ② 所属 ③ 受講年度 ④ 受講の動機 ⑤ 今後の目標や、後輩へのメッセージ

* 2021年度は受講期間が最大3年でしたが、2022年度から受講期間が1年となりました。



修了生のインタビュー内容は、下記URLでご覧いただけます。

<https://www.omu.ac.jp/las/jitsumuka/talk>

Questionnaire answer

① 野上 智② 株式会社エクステンド③ 2022年度④ 中小企業の経営力強化をサポートする仕事柄アントレプレナーシップにも興味があったことから⑤ 大学で授業をするだけでなく、学生との交流を持ちたい。最初は教員の手伝いから始めて、教員という職業について学びたいと考えている。そのため仕事を通じて出会った人に積極的に声をかけて、関係を築いている。



多彩な受講仲間と学び合い、
授業後は飲食店で論戦

わたしは中小企業の経営力強化をサポートする機関で働いています。仕事柄アントレプレナーシップにも興味があり、新聞で募集広告を見た瞬間に応募を決めました。

はじめはアントレプレナーシップを、「新しくビジネスを興すチャレンジ精神」のようにイメージしていました。しかし、学ぶうちにスモールビジネスとスタートアップは別物であることを理解しました。スモールビジネスは既存のマーケットで既存のビジネスモデルを踏襲しますが、スタートアップが手掛けるのは今までにない全く新しいビジネスモデルであり、0から1を生み出すイノベーションなのです。

本コースで得た財産は数え切れませんが、特筆すべきは共に学んだ仲間との出会いです。銀行家からスタート起業家までさまざまな人が集まっており、専門科目の講義後は飲食店に移動してその日の課題などを皆で議論しました。まるで2限目の自主ゼミといった感じです。それぞれの立場からの視点や意見に触れることができ、とても刺激的でした。

Questionnaire answer

① 鳥越 克裕② 電機メーカー勤務③ 2022年度④ 勤務先での幹部候補やグローバル人材の育成に携わった経験から、後進の育成についてもっと追求したいと思っていたから⑤ 本コースで得た知見や大学とのご縁を生かして、産学連携に取り組んでみたいと思う。

イノベーションを目指し、
人を育て、仕組みをつくる

受講のきっかけは、勤務先での幹部候補やグローバル人材の育成に携わった経験から、かねてから後進の育成についてもっと追求したいと思っていたこと。他国に比べてイノベーションが起きにくい日本の現状に危機感を持っており、人材育成にはアントレプレナーシップの知見が欠かせないと意を決しました。

個性豊かな教授陣が本コースの大きな魅力のひとつでしょう。現場の第一線で活躍されている鐘ヶ江先生と広瀬先生というタイプの違う師が在籍されているのがユニークです。鐘ヶ江先生がMOT(技術経営)に関する手法についてケーススタディを通じて分りやすく教えてくださる一方、広瀬先生はこちらの固定観念を打ち砕く授業をされ、どちらも大変刺激的でした。また広瀬先生の授業ではいつも「問われて、思考し、すぐ答えを出す」ことが求められるので、久しぶりに脳に心地よい汗をかくことができました。今後は本コースで得た知見や大学とのご縁を生かし、産学連携に取り組んでみたいと考えています。



年間スケジュール

7月 7月25日 受講開始

8月 8月6日 オリエンテーション(対面@東京)

① 大学教育基礎力科目

①大学教育基礎力科目(15時間)

【目的】大学で授業を担当するのに必須となる基礎的な知識・技能を修得することを目的とします。

【学習目標】大学教育の動向や大学教員の役割・責務・倫理について正確な認識を持つとともに、インストラクショナルデザインやカリキュラムデザイン等の観点から、教育目標(期待される学習成果)の設定、学習評価、教育内容、教育方法、教材作成等に関する基礎的な知識・スキルを修得し、それらの応用により、実務経験の体系化・構造化とその学問的知識との関連付けを行うことを目指します。

【受講形態】非同期型オンライン

9月

② 汎用的教育実践力科目

②汎用的教育実践力科目(9時間)

【目的】大学で授業を担当し、研究指導を行うために必要な実践的な知識・スキルを修得することを目的とします。

【学習目標】研究指導、シラバス作成、インストラクショナルデザインについて、同期型オンライン・ワークショップを通して、実際の教育現場で活用・応用できるようになることを目指します。

【受講形態】同期型オンライン

10月

11月

③ 専門領域別科目
アントレプレナーシップ教育力養成コース

③専門領域別科目(24時間)アントレプレナーシップ教育力養成コース

【目的】起業時や企業での新規事業開始に当たり必要な基礎知識を学ぶとともに、それらを指導・教育するための手法や技能を習得することを目的とします。

【学習目標】

- ・技術マネジメントの基本的な考え方を理解し、説明できる
- ・事例に基づく技術マネジメントの指導力を身に付け、実践できる
- ・アントレプレナーが理解しておくべき基本的知識を理解し、説明できる
- ・アントレプレナーの育成体系を理解し、それを実践できる

【受講形態】非同期型オンライン6時間、対面・同期型オンライン18時間

12月

1月

④ 教育イノベーター実践演習科目

④教育イノベーター実践演習科目(12時間)

【目的】これまでに修得した大学教育基礎力並びに汎用的及び専門的な教育実践力を総合的・応用的に活用して、教育イノベーターとして授業や教育プログラム等を変革・改善して実践・運営できるようになることを目的とします。

【学習目標】実践知と学術知の往還を意識しながら自律的に構想した新規の取組案(授業、カリキュラム、プロジェクトの案等)の発表・討論を行います。

【受講形態】同期型オンライン

募集要項

1 応募資格

下記、①②の両方を満たす者。

- ①大学を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者
- ②原則として専門的技術的又は管理的な職務において5年以上の実務経験を有する者

2 定員

アントレプレナーシップ教育力養成コース25名(4コース合計100名)

3 受講料

入学金:なし 受講料:300,000円

本コースは2023年度から厚生労働大臣指定「特定一般教育訓練給付制度」の講座となりました。一定の条件を満たした方に受講者本人が支払った受講料(教育訓練経費)の4割(12万円)が公共職業安定所から支給されます。教育訓練給付制度の受給希望者は、募集要項とともに、教育訓練給付制度(特定一般教育訓練)案内をご参照ください。

<https://jitsumuka.jp/innovator/entry2023/>

4 応募方法

文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」産学連携教育イノベーター育成プログラムウェブサイト

<https://jitsumuka.jp/innovator/>

にて応募書類をダウンロードし、必要事項を記載の上、ご提出ください。

5 応募期間

一次募集:2023年3月1日~3月31日

二次募集:2023年4月上旬

※ただし、一次募集で定員に達した場合、二次募集は行いません。

詳細は、別紙「産学連携教育イノベーター育成プログラム 科目概要」及び「産学連携教育イノベーター育成プログラム 日程表」をご参照ください。また、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、日程や実施方法等の変更を行う可能性があります。

産学連携教育イノベーター育成プログラムウェブサイト

<https://jitsumuka.jp/innovator/>



代表校



東北大学
TOHOKU UNIVERSITY

連携校



熊本大学
Kumamoto University



大阪公立大学
Osaka Metropolitan University



立教大学
RIKKYO UNIVERSITY

● 応募・プログラム全体に関するお問い合わせ

産学連携教育イノベーター育成プログラム事務局
東北大学
高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター
〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内41 TEL 022-795-4472
E-mail innovator.jitsumuka@grp.tohoku.ac.jp

● 本紙に関するお問い合わせ

公立大学法人大阪 大阪公立大学
事務局 学務部 教育推進課
〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1番1号
E-mail las-jitsumuka.ep@ml.omu.ac.jp
URL <https://www.omu.ac.jp/las/jitsumuka/>

